

科学技術の智 2008

科学技術の智プロジェクト：2008年4月以降の1年の動き

科学技術の智プロジェクト

委員長 北原和夫

科学技術の智プロジェクトは、2006年度から2007年度にかけての科学技術振興調整費による2年間の調査研究を終えた後も活動を続けております。本サイトには、2008年度に入ってから、2008年6月に総合報告書1冊、専門部会報告書7冊が掲載されておりますが、それらを含めて、2008年度の活動の記録をここにまとめておきます。

1. 科学技術の智プロジェクトの2年間の研究成果の公式報告

2008年3月までの企画推進会議の議論をまとめて、三者会議を中心に対処した。

- (1) 5月1日：総合科学技術会議において研究成果を報告する。今後も具体的な計画に基づいて活動を継続して欲しいとの要望が出された。
- (2) 5月20日：日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会に報告する。
- (3) 9月18日：日本学術会議第64回幹事会で報告が承認される。
- (4) 10月31日：日本学術会議のサイトに報告が掲載される：日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会報告『21世紀を豊かに生きるための「科学技術の智」』

2. 科学技術の智プロジェクト報告書の公開・刊行

2008年3月までの企画推進会議・各専門部会の研究成果をまとめて、三者会議を中心に対処した。

- (1) 4月24日：文部科学省記者クラブで、有馬評議会議長、北原委員長、伊藤副委員長が、渡辺広報部会長の司会で記者レクを行う。
- (2) 6月13日：報告書（6月改訂版）を本プロジェクトのサイト上で公開する。
- (3) 7月～8月：株式会社半導体エネルギー研究所の支援で、総合報告書・専門部会報告書（6月改訂版）の増刷を行い、関係箇所、メンバー等に配布した。

3. 科学技術の智プロジェクトの研究成果の普及活動

委員長をはじめ、多くのプロジェクトメンバーが、科学技術の智プロジェクトの研究成果を普及する活動を行ったが、ここでは主として委員長が関わった活動のみをあげておく。

- (1) シンポジウム等（委員長が出席した講演等だけを列举する）
 - ①4月21日：「フォーラム“社会の中の科学技術”」（略称：有馬フォーラム）
 - ②5月25日：社会技術研究開発センター（RISTEX）主催科学技術リテラシーシンポジウム
 - ③7月1日：台北で台日科学リテラシーセミナー
 - ④7月19日：東京大学物性研究所での物性委員会幹事会
 - ⑤8月23日：岡山で開催された日本科学教育学会年会におけるシンポジウム

⑥9月27日：名古屋の「第1回科学リテラシー講演会・科学実験指導者講習会」

⑦10月1日：社会技術研究開発センター（RISTEX）の会合

⑧10月18日：東京大学生産技術研究所におけるシンポジウム

⑨11月21日：広島大学教育学部附属福山中・高等学校

⑩11月22日：福井市における「理科教育ワークショップ研究会」

⑪12月5日：科学技術館（北の丸）で電気学会技術史研究会

⑫12月6日：大学教育学会（岡山大学）

(2) サイエンスアゴラ：11月22日から24日

11月23日「水をめぐる旅 水の科学技術リテラシー」

(3) サイエンスリテラシーカフェ：三鷹ネットワーク大学

4. 科学技術の智プロジェクト報告書の科学雑誌等での普及

下記は、科学技術の智プロジェクトとして、科学雑誌等で行った科学技術の智プロジェクト報告書の普及活動（予定を含む）をまとめたものであり、メンバー個人のものは含まれていない。

(1) 科学技術振興機構（JST）の『サイエンス・ウインドウ』2008年7月号

(2) 日本科学教育学会誌『科学教育研究』

通常号：宇宙・地球・環境科学（2008年3号）、物質科学、数理科学（2009年1号）

特集号（2008年4号：科学的リテラシー）：北原委員長他

(3) 日本学術会議『学術の動向』2009年4月号の特集記事

「全ての国民のための科学リテラシー」

(4) 国立科学博物館『milsil』「科学技術リテラシー」新連載予定

5. 科学技術の智プロジェクトの継続のための組織の設立（第2期へ向けて）

2008年からの科学技術の智プロジェクトは、それ以前と区別して、「第2期」と位置づける。第2期においては、毎年の活動を「科学技術の智2008」のように年号を後に付けて表す。

また、これまでの「三者会議」の機能を持った会議の名称を「企画運営会議」と改める。

(1) 日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会 科学技術リテラシー小委員会の設置

2009年2月26日の日本学術会議第72回幹事会で承認される。

(2) 科学技術振興機構（JST）の「科学コミュニケーション推進会議」のワーキンググループ「科学技術リテラシー分科会」の発足。

6. 科学技術の智の普及活動

科学技術の智の研究成果を普及するために、企画運営会議（旧称 三者会議）を中心に対処している。

(1) 新技術振興渡辺記念会の研究助成金へ応募

小学校教員の科学技術リテラシーのリフレッシュの実態把握

(2) 出版社と出版計画の交渉

一般向けの科学技術リテラシーの本の出版

7. 科学技術の智プロジェクトと他の活動との今後の連携の計画

- (1) 「科学技術の智」講座：三鷹ネットワーク大学
- (2) 「科学技術の智」を基幹とする JST 支援による地域との連携活動（三鷹、名古屋、函館）
- (3) 「東京国際科学フェスティバル」を 2009 年 9 月 12 日～9 月 27 日に開催予定（三鷹市中心）
- (4) 高校教育における科学技術の智の試行：横浜サイエンスフロンティア高校
- (5) 持続発展教育（ESD）：ICU・大沢学園と南アフリカのケープタウン大学との共同事業

8. 日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会 科学技術リテラシー小委員会

科学技術の智プロジェクトの 2008 年度の活動の報告と今後の活動を討議するために、小委員会を 2009 年 3 月 18 日（水）に日本学術会議で開催した。